

海外研究助成成果発表会

カレル大学：公開講演会

日時 平成7年3月16日 10:00～12:00

場所 同大学 本部講堂中会議室

テーマ 九州大学・カレル大学の環境関連の共同研究に関する講演会

平成6年度の総合研究助成を受けた「プラハ市における大気汚染と効果的な削減対策」は九州大学応用力学研究所、植田洋匡教授およびチェコ共和国・カレル大学、B.モルダン教授を代表者として米国・オランダの研究者が加わり、平成6年8月から3年間の国際的共同研究の活動を開始した。カレル大学ではこの共同研究について、市当局並びに市民の理解を深めるために、プラハ市庁並びに同大学の代表者を迎えて、公開講演会を開催した。この機会に、当財団が進めている地球環境関連の活動について理解を深めるために、「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」の調査結果を発表・報告した。

講演会では、プラハ市内に設置が予定されている大気汚染濃度モニタリングシステムの電光掲示板がデモンストレーションされ、出席者の関心が高まり、講演終了後には報道関係者から、(i)光化学スモッグの住民に対する影響、(ii)3年間の研究から予想される成果、(iii)地球環境問題に関する危機意識、などの質疑応答が展開された。

また、日本大使館からもこの研究が時宜に適しており極めて意義深いとの感想が寄せられた。

(1) ベドリッヒ・モルダン教授
「プラハ市の大気汚染と光化学スモッグ研究と対策」

(2) 植田洋匡教授
「大気中での光化学反応と日本および東アジアにおける光化学スモッグの拡散事例研究、およびそのコンピュータによる予測」

(3) 旭硝子財団専務理事 白神修
「地球環境問題に関する意識調査結果の報告」





Copyright (C) The Asahi Glass Foundation